

〔入國記〕越前國

越前之國ノ風俗日本ニ無雙智惠國ト覺タリ是上臈ヨリ下臈ニ至マデ他ノ國ニ分ツ而見ル時  
 如此之辨舌尾州ニモ劣ルマジキ國ナリサルニ仍テ高慢ニシテ底意地惡敷輕薄ニ有之一旦賴  
 母敷ヤウニテ語ル處ツレナク譬バ人ヲ過メ走リ入テ頼ム時ハ心安ク請合テ詮議頻リ成時ハ  
 ツレナク突放シ或ハ旅人之渡リニ舟ヲ求レバアタイノ甲乙ニテ舟ヲ不渡亦ハ執行暮テ宿ヲ  
 求ルニモ餘國ニ違テ萬事ツレナク如此成作法百人ニ四五十如此ナリ智有テ智ヲ發ツ而諸事  
 ニ聞キ事ナク辨ズルヲ本智トズ是國ノ人ハ智有テ邪智ヲクシテ義スクナシ  
 〔日本鹿子〕同前○越國名所之部  
 有乳山 海津の宿より一里北のかたなり京より丑寅にあたる也  
 雲が、る有乳の山をかりがねの霧にまどひていかゞまつらん  
 矢田野 廣野 大野 有乳山の北に道の口といふ宿有それより北へ一里ばかり行ば

矢田野なり敦賀の津へ出ればいづれも西のかた也新古今冬の歌に人丸  
 矢田の野におさぢ色付あらし山みねのあは雪寒くぞあるらし  
 阿岐師の里 あらし山の西一里計行て此里有河内の國にも同名あり  
 あらし山雪げの空に成ぬれば阿岐師の里に霞ふりつゝ

角鹿山 浦濱有之あらし山の北也道の口より寅のかたへ行は越前の府へ行也つるがは北へ  
 行也世俗につるがの津と云也當津氣比の明神の社あり社西むき也山は東にあり  
 梓弓つるがの山を春越てがへりし雁は今ぞなくなる

筒飯海 角鹿の浦濱をいふ也つるがに氣比明神の社あり仲哀天皇此所に幸の時行宮をたて  
 て筒飯の宮といふといへりしかしより此所の浦濱を氣比の海と總名をよびけるといへりけ